



有形文化財（絵画）

14. 絹本着色蓮如上人画像 けんぼんちやくしよくれんによしょうにんがぞう 1幅 ぶく

■指定年月日 平成5年3月18日（1993）

■寸法 縦 85.5cm 横 33.8cm

■所在地 飯田町 14-71

■所有者 さいしょうじ 西勝寺

本願寺中興の祖といわれる本願寺8世蓮如は、文明3年（1471）から7年にかけて、越前・加賀境の吉崎に逗留し、一気にその教線を拡大した。この画像の願主である良誓は、吉崎で蓮如の弟子となり、御影を受けて一時小松に住んだが、5代後の祐信が伝来の御影を持参して飯田総道場（光福庵）に入寺。西勝寺と号した。裏書には、かすかに「加賀石」「藤専」「願主釈良誓」の文字と蓮如の花押が認められる。鏡を見て蓮如自ら描いたとの伝承があることから、「鏡の寿像」と呼ぶ。

像高 32.8cm・横 33.8cm。黒衣・墨袈裟をまとい、やや左に向いて数珠をつまぐり、上置に座す像で、ふくよかな顔・慈愛を秘めた眼差し・微かに朱を施

した意志の強さを示す口元など、蓮如の特色がよく描かれている。世上に知られる京都西法寺・愛知浄妙寺蔵蓮如画像などに比べると、目元が柔和で、穏やかな相貌をしており、出色の画像である。顔部にやや胡粉ごふんが出ているのと、裏書の剥落が激しいために下付年代のはっきりしないのが惜しまれるが、西勝寺由緒では、延徳3年（1491）蓮如67歳の御寿像とされている。

画像上部に、親鸞作きょうぎょうしんしょう『教行信証』総序の眼目である「弘誓強縁…遠慶宿縁」の4行24字讃が記されている。